

第二話 人生で起こること、すべて、深い意味がある

意味を感じる日本人の精神性

では、「第二の覚悟」とは、何か。

人生で起こること、すべて、深い意味がある

そう心に思い定め、信じることです。

もし、あなたが、第一話で述べた

「自分の人生は、大いなる何かに導かれている」という覚悟を定めるならば、

その瞬間から、人生における、どのような出来事も

たとえ、それが、不運な出来事、不幸な出来事と見えるものであっても、「意味のある出来事」であることを感じ始めます。

そして、この「人生の出来事に、何かの意味を感じる」ということは、本来、日本人の多くが、自然に身につけている感覚です。

特に、仕事や生活において、何かを計画して、それが自分の思うままにならなかったとき、

例えば、仕事での重要な出張において、肝心の飛行便がキャンセルになる、例えば、親友の結婚式の日に、ひどい風邪を引いて欠席せざるを得なくなる、そうしたとき、我々は、最初、「何と運が悪いのか……。」と思い、

「なぜ、このタイミングで、こんなことが……。」と思いますが、しばらく考えていると、

「このタイミングで、こうした出来事が起こるのも、何か意味があるのか……。」という思いが心に浮かんできます。

実は、人生において、こうした感覚は、とても大切な感覚なのですが、もし、あなたが、この「感覚」を「覚悟」にまで深めることができるならば、人生の風景が、根本から変わります。

すなわち、

「自分の人生は、大いなる何かに導かれている」
「人生で起こること、すべて、深い意味がある」

という二つの「覚悟」を定めることができるならば、人生というものが、気まぐれな「偶然」に左右され、不運や不幸な出来事によって翻弄されるものであるという不安や恐怖の感覚から解放され、人生のいかなる出来事に対しても、

「この出来事には、大切な意味がある。それは、どのような意味か」

という肯定的な問いを胸に、

正面から向き合うことができるようになります。

挫折した大関の述懐

では、人生における不運や不幸に見える出来事に対して、その「意味」を感じるために大切なものは、何か。

それは、「解釈力」と呼ぶべき力です。

すなわち、

いま自分が直面している

苦労や困難、失敗や敗北、挫折や喪失、病気や事故などの
逆境の「意味」を解釈する力。

それが「解釈力」です。

言葉を換えれば、

「この苦労は、自分に、何を教えようとしているのか」

「この失敗は、自分に、何を学ばせようとしているのか」

「この挫折は、自分に、何を掴ませようとしているのか」

「この病気は、自分に、何を伝えようとしているのか」

そうしたことを考える力、それが「解釈力」です。

例えば、先ほどの二つの例で言えば、

「ああ、最近、あの顧客との関係に嫌気が差していた。

その自分の否定的な思いが、

こうした飛行機のキャンセルを招き寄せたのではないか。

この出来事は、もう一度、あの顧客との良い関係を築けという

何かのメッセージかもしれない……」

「ああ、自分は、親友の結婚を本当に喜んではいなかった。

何か、また差をつけられたような気持ちだが、心の奥底にあった。

その思いが、この風邪を引き寄せたのではないか。

この出来事は、その自分の嫉妬心に気づかせてくれた……」

そうした深いレベルでの解釈をする力、それが「解釈力」です。

もとより、こうした出来事の「解釈」は、ただ一つではありません。

様々な「解釈」があり得ます。

しかし、「解釈力」が正しく発揮されるときには、なぜか、

心に浮かぶその解釈が、最も大切な解釈であるとの確信が伴うのです。

たしかに、人生で逆境を乗り越えた人々は、その多くが、
与えられた逆境について、見事な形で「解釈力」を発揮しています。

例えば、大相撲の世界で、ある大関が、その絶頂期に足の故障で長期休場を余儀なくされました。ある雑誌のインタビューで、その大関が、苦難の時期を振り返り述懐した言葉が、そのことを教えてくれます。

「あの頃の自分は、慢心していたのです」

「だから、あの頃の自分は、挫折しなければならなかったのです……」

この大関の発言は、見事なほど、

「この挫折は、自分に、何を教えようとしているのか」を考え、その挫折を、自身の精神的な成長の糧とする姿勢を語っています。

そして、この挫折を、単なる不運な出来事、不幸な出来事と考えず、その「意味」を深く受け止め、肯定的に解釈する力、すなわち、見事な「解釈力」を発揮したからこそ、この大関は、足の故障による長期休場から復帰し、

ふたたび土俵での活躍ができたのでしよう。

左足を失った夫への言葉

ただ、こう述べてると、あなたは、次のような疑問を抱くかもしれません。

「この大関が『解釈力』によって、その逆境を乗り越えられたのは、足の故障という問題だったからであって、もつと深刻な人生の逆境は、単なる『解釈力』などというものによって、それほど簡単に乗り越えることはできないのではないか」

たしかに、私は、人生におけるいかなる逆境も、

「解釈力」によって乗り越えられると申し上げるつもりはありません。

ただ、この「解釈力」については、我々を励ましてくれる

さらに極限の状況でのエピソードがあります。

それは、海外で交通事故にあった人物のエピソードです。

この人物は、海外出張中に自動車を運転していて、一瞬のミスから大事故を起こし、病院に担ぎ込まれたのですが、大手術の結果、一命は取り止めたものの、左足を切断するという結果になったのです。

麻酔から覚め、その現実を知ったこの人物は、一瞬の不注意によつて人生を棒に振つてしまったことを思い、悲嘆のどん底に投げ込まれていました。

しかし、事故の知らせを受けて日本から駆けつけた

この人物の奥さんは、

病室に入るなり、旦那さんを抱きしめ、何と言つたか。

「あなた、良かったわね！

命は助かった！

右足は残つたじゃない！」

このエピソードが、我々に教えてくれる大切な「人生の真実」があります。

何が起こつたか。

それが、我々の人生を分けるのではない。

起こつたことを、どう解釈するか。

それが、我々の人生を分ける。

たしかに、そうなのです。

我々は、人生で与えられた逆境が、

我々の人生を大きく変えてしまうと思つています。

しかし、本当は、そうではありません。

人生で与えられた逆境を、どう解釈するか。

それが、我々の人生を大きく変えてしまうのです。

そして、人生で与えられた逆境を、どう解釈するか。

それが、我々の人生の「時間の意味」を、大きく変えてしまうのです。